

## 《学校法人みどり学園 平成 28 年度財務の概要》

平素はみどり学園の発展のため、多くの皆様方からご支援ご協力を賜りありがとうございます。皆様のご厚情に応えるべく、関係者一同本学園の学校教育機能向上のため日々の業務に励んでおります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

さて、本学園の本年度(平成 28 年度)の財務の概要を報告いたします。

- 平成 28 年度短期大学においては、より利便性の高い駅前の学舎への移転後初めての決算年度となりました。新学舎の維持には当初計画よりゆとりを確保するための増室等で賃借料が増大(4 千万円程)し、教育研究経費全体では 7 千万円を超える補正になりました。
- 短期大学の学生募集では全体で 77 名の新入生を迎え在籍者は 180 名、別科 10 名となりました。これは 240 名の定員の 75.0%(前年度 81.3%)です。本年度も「大阪府離職者等再就職訓練事業(介護福祉士養成科)」、さらに認定こども園の教育・保育者としての資格を取得する特例講座を開講したことによって、定員割れを若干補うことができました。
- 短期大学設置 15 年目に入った本年度は、幼稚園を含む全体で 221,289 千円(昨年 242,397 千円)の学生生徒等納付金収入になりました。ところが学生数の減少にもかかわらず教育研究経費が増加したことによって国庫補助金が 11,771 千円増加し補助金収入が 162,282 千円となり、特別寄付金も 20,184 千円と増えましたが、経費の方も大きく増え短期大学の教育活動収支差額は△118,358 千円の赤字となりました。

したがって法人全体では本年度の基本金取崩額を差し引いた基本金組入額 230,576 千円によって翌年度繰越収支差額は△54,277 千円となり、昨年度は△421,438 千円あった年来の赤字を解消することができたのですが、本年度は若干ですが再び赤字に戻ってしまいました。

なお、短期大学では昨年度と同様、中長期的課題は引き続き事業活動収支における経常的な教育活動収入で経常的な教育活動支出を賄え、翌年度繰越収支差額を少しでも黒字になる方向に努力することに変わりはありません。
- 一方、長期借入金では市中金融機関からの借入金の本年度返済額 9,996 千円を順調に返済し、残高は 79,175 千円となりました。また、短期大学部門の課題であった減価償却引当特定預金や退職給与引当特定預金の積立は、昨年同様次年度以降の課題とせざるを得ませんでした。

2017 年 6 月 1 日

学校法人みどり学園  
理事長 平尾達夫